



公益財団法人
知床自然アカデミー
Shiretoko Nature Academy

Academy News Letter

No.33



2025-8

巻頭 組織名称の変更について

特集 知床世界自然遺産登録20周年

知床の世界自然遺産登録20周年に思う（渡辺綱男・自然環境研究センター副理事長）
20周年の道のり

知床ネイチャーキャンパス2025のお知らせ など

2024年度事業報告

2025年4月 「公益財団法人 知床自然大学院大学設立財団」から

「公益財団法人 知床自然アカデミー」に

改称しました

<新ロゴマークについて>

流水(知の循環)、波紋(知の波及)、夕焼けと山(知床の風景)、本(知の蓄積)の要素から、知床の自然そのものが「教育の場」であることを示しています。知床の自然の特徴である海、川、陸のつながりとともに、知床のフィールド(大地)を「開かれた本」に見立て、そこから「知」が波及していく様子を知床らしいモチーフで表現しています。



公益財団法人
知床自然
アカデミー



Shiretoko
Nature
Academy

制作: 合同会社北暦

北暦(ほくれき)は、北海道知床半島を拠点に、アートとデザイン、地域の歴史文化や、まちづくりに関わる記録と制作をおこなうチームです。 <https://www.hokureki.com>

公益財団法人知床自然大学院大学設立財団は、2025年4月より、「公益財団法人 知床自然アカデミー」に改称し、新たな組織名で活動を行うこととなりました。

知床自然大学院大学設立財団は、2013年の設立以来、野生生物と人との共存を担う人材養成のための教育機関設立などを目指し、知床ネイチャーキャンパスなどの各種事業を展開してきました。今回の名称変更は、より幅広い対象や内容を掲げ、知床ネイチャーキャンパスを核とした教育活動を続けていくための新たなスタートと捉えています。

今後とも当アカデミーの活動に変わらぬご支援、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

公益財団法人 知床自然アカデミー

代表理事 梶 光一

※組織名称変更に伴い、このニュースレターは「アカデミー ニュースレター」にタイトルを変更しました。

2025年7月17日

知床は世界自然遺産登録20周年

を迎えました！



2005年7月17日、南アフリカのダーバンで開かれた世界遺産委員会で知床の世界遺産登録が決まってから今年で20年。この20年で世の中は急速に変化しましたが、次世代に知床の豊かな環境を残すため、多くの人が関わって、現在も試行錯誤を続けています。

知床は日本で3番目の世界自然遺産でした。その後小笠原諸島と奄美大島・徳之島・沖縄島北部及び西表島が登録され、現在日本には5つの世界自然遺産があります。

知床が登録に至る道は決して平坦ではありませんでした。審査機関であるIUCN（国際自然保護連合）の現地調査のあと、保護強化や海域拡大を求める書簡が日本政府に送られ、登録にあたって5項目の勧告が付帯されました。

それは、サケ科魚類の移動を妨げている河川工作物の改善や、海洋資源保全のための海域管理計画の策定、増加したエゾシカ対策など。これらの課題に取り組んだのが、登録前年に発足した知床世界自然遺産地域科学委員会です。ここには我が国の第一線で活躍している研究者がそろい、蓄積された研究成果をもとに具体的対応策が検討、実施されていきました。科学委員会が常設され、専門家と各行政機関、地元関係団体が連携する保全体制も、我が国では先進的でその後のモデルになるものでした。

人と野生動物との軋轢や、気候変動による環境変化など、今でも課題は山積しています。過去の蓄積を生かし、正解のない多様で複雑な問題解決を目指すことが求められています。

知床の世界自然遺産登録20周年に思う

渡辺 綱男 自然環境研究センター副理事長



知床連山と100平方メートル運動地(知床斜里町観光協会提供)

わたなべ つなお
渡辺 綱男

遺産登録準備段階から環境省釧路自然環境事務所長として尽力。同自然環境局長等を経て、現職。当アカデミー顧問。



この7月、知床は世界自然遺産登録から20年の節目を迎えました。登録前後のことを改めて思い起こし記してみます。

2003年5月、世界自然遺産の候補地検討会で知床が3つの候補地のひとつとして選ばれました。環境省本省から釧路の事務所に「最初に知床の登録を目指す」という連絡が入りました。当時、釧路事務所は釧路湿原自然再生事業の立ち上げのために奔走していましたので、そこに新たな重要な任務が加わることになったわけです。前年に私と一緒に釧路に着任した鳥居敏男さんや事務所メンバーとチームをつくり、地域の皆さんと連携して、手探りで推薦に向けた準備を進めました。

■科学委員会設置を決断

同年10月には関係機関・団体の合意形成の場として地域連絡会議を設置し、推薦書に添付する管理計画の議論を開始しました。そして管理計画案をまとめ、パブリックコメントとして広く意見を募集したところ、知床で研究活動を行ってきた研究者の皆さんから「これまでの研究成果がまったく活かされていない」という大変厳しい意見が数多く寄せられました。どう対応すべきか悩んでいた時、梶光一さん(現・知床自然アカデミー代表理事)から「科学委員会を設置してはどうか」とご提案をいただきました。知床に関わる研究者の皆さんが求める高い保全水準に行政が応えていけるか不安もありましたが、森・川・海にわたる統

合的な管理のためには科学的なアドバイスが欠かせないと考え、勇気を出して科学委員会を設置することを決めました。2004年1月に推薦書をユネスコに出し、7月にIUCNのデビッド・シェパード氏が現地調査に来る、その直前に科学委員会は発足したのです。

この現地調査中、シェパード氏は牛来昌さん(当時・斜里町長)、脇紀美夫さん(当時・羅臼町長)をはじめ地域の皆さんの知床への想いにふれ、さらに100平方メートル運動の歴史や知床財団の活動を知り、感銘を受けていました。また、私は現地調査対応でウトロ滞在中に上野洋司さん(当時・知床斜里町観光協会会長)から、「私たちは世界遺産の実現とともに知床を世界の学びの場としていく自然大学構想の実現も目指している」というお話を聞いて心が動かされたことも良く覚えています。

■世界のモデルと高く評価

現地調査のあと、漁業の規制やダムの改良にもふれた厳しい内容の書簡がIUCNから届きます。そして激しい議論を経て、2005年7月に世界遺産登録が決定されます。その際、海域生態系保全と漁業の両立のための「海域管理計画の策定」、河川の遡上環境改善のための「サケ科魚類管理計画の策定」などを求める勧告が示されました。こうした難しい課題を乗り越えていくうえで、地域の知恵や意識に根ざした議論と自分たちも現場で共に汗をかく

という科学委員会の皆さんの真摯な姿勢が大きな力を発揮したと感じています。2008年2月にこれら勧告の実施状況評価のために知床を訪れたIUCNのデビット・シェパード氏とユネスコのキショー・ラオ氏からも、「地域のボトムアップ・アプローチと科学委員会を通じた科学的アプローチを組み合わせて難しい課題に対応したことは世界のモデル」と高く評価されたのです。

IUCNの書簡を受けて、漁業者の皆さんは漁業活動が規制されるのであれば世界遺産は受け入れられないと、強い懸念を示しました。最終的には持続的な漁業の営みと豊かな海の生態系保全を両立させるという方針を立て共有することで、漁業者の皆さんの理解を得て、世界遺産登録につながりました。漁業者の皆さんとお話をした際に、強く印象に残っている言葉があります。「自分たちは知床の海の豊かさと同時に怖さを肌身を通じて感じている。だから知床の自然を守る大切さは誰よりも分かっている」という言葉です。知床では、森や川や海の生態系を回復させるための取り組みが進められています。知床の自然をより良い状態に回復させることができた時に自然だけでなく地域の人たちの暮らしや営み、歴史や文化が今よりも輝きを増す、そんな将来を目指していきたい、そう強く思います。

20周年の道のり

2005 世界自然遺産登録！

2006 油汚染海鳥が大量漂着



2月、知床半島の海岸に、油で汚染された海鳥の死体が大量漂着。回収されたエトロフウミスズメなど海鳥類は6千羽近くに。汚染された海鳥を食べたオオワシの死体も発見された。

2009 世界遺産センターOPEN



4月、道産カラマツ間伐材を使用した木造平屋建て758㎡のセンターがオープン。迫力ある写真パネルやジオラマなどの展示で、世界自然遺産知床の特徴やルールを伝えている。

2015 世界自然遺産登録10周年



8月に世界遺産タウンミーティング「人と野生動物の折り合いの付け方」が開催された。イエローストーン国立公園の研究者による講演や、地元斜里、羅臼高生による発表などがあった。

2019-23 新型コロナウイルス感染症の世界的流行

2023 自然公園法改正 ヒグマへの接近やつきまとい規制



国立公園内で観光客やカメラマンらとヒグマとの軋轢が多数発生していることから、10月から、ヒグマへの著しい接近は距離30m未満、つきまといは距離50m未満が規制対象となった。

2025 知床自然大学院大学設立財団から 知床自然アカデミーへ

2008 ユネスコとIUCNが現地調査

2月、キショー・ラオ氏(ユネスコ世界遺産センター次長)とデビット・シェパード氏(IUCN保護地域事業部長)が現地調査。報告書には賞賛とともに、今後の助言として17項目の勧告も。



2011 知床五湖で利用調整地区制度スタート

知床最大の観光地・知床五湖で、植生保護やヒグマ対策のため、レクチャー必須の地上遊歩道と、誰でも歩ける高架木道の2つの利用を選べる現在の仕組みがスタート。



2013 知床自然大学院大学設立財団発足

2016 知床ネイチャーキャンパス スタート

当アカデミー中心事業の「知床ネイチャーキャンパス」はこの年初開催。10月9～10日、1日目が講義、2日目が野外実習という内容だった。受講生22人が世界遺産の管理を学んだ。



2022 知床観光船沈没事故発生

2024 国立公園指定60周年

知床は1964年に国立公園に指定され、この年60周年。指定日の6月1日に斜里で記念シンポジウムが開催され、作家の河崎秋子さんが講演したほか、関係者が国立公園の未来を語った。



募集終了

知床ネイチャーキャンパス2025を開催します

テーマは「河川生態系の復元」

2025年から27年にかけての知床ネイチャーキャンパスでは、知床が評価された生態系（海と川と森のつながり）について3年間で学ぶプログラムを開催します。第1弾の2025年は海と森をつなぐ「川」がテーマ。魚類の行き来を妨げる河川工作物改良や河畔林の再生、シマフクロウ生息地拡大について、地域と行政が協働して取り組む様子を学びます。

オンライン講義

1日目：2025年8月16日（土）

13:30～17:00

2日目：2025年8月17日（日）

9:30～12:10

現地実習・ワークショップ演習

2025年9月10日（水）～12日（金）

実習場所：イワウベツ川、ペレケ川、
斜里川、標津川など

演習場所・宿舎：ホテル知床



詳細ページ ▶



講師

中村太士さん（講義1、現地実習・演習）北海道大学名誉教授

竹中 健さん（講義2、現地実習・演習）シマフクロウ環境研究会代表

福井 翔さん（講義3、現地実習・演習）東京農業大学生物産業学部海洋水産学科助教

森 高志さん（講義4、現地実習・演習）斜里川を考える会事務局長

臼井 平さん（講義5、現地実習・演習）知床博物館学芸員（生物担当）

中西将尚さん（現地実習・演習）

公益財団法人 知床財団 事業部参事 自然再生・交流推進担当

梶 光一さん（現地実習・演習）

兵庫県森林動物研究センター所長・当アカデミー代表理事

受講生募集中

知床ネイチャーキャンパス2025リカレント ヒグマ管理を開催します

知床半島の斜里、羅臼両町をフィールドに、被害対策や安全対策、管理の考え方、現地での取り組みや課題を学びます。

オンデマンド講義

2025年8月23日（土）～9月28日（日）

※期間内の好きな時間に何度でも視聴できます。

※講義のみの受講は受け付けておりません。

現地実習・ワークショップ演習

2025年10月1日（水）～3日（金）

実習場所：知床五湖、ウトロ市街地、
羅臼市街地など

演習場所・宿舎：ホテル知床

講義1 ヒグマの生態と管理

講義2 最近のヒグマ生息状況と市街地対策

講義3 ヒグマ管理計画の策定と運用の実際

講義4 知床のヒグマ管理現場の実際と課題

定員：25名

受講料・参加費：55,000円（税込）



申込先 ▶



講師

間野 勉さん（講義1、2 現地実習・演習）北海道立総合研究機構フェロー

松田裕之さん（講義3、現地実習・演習）

横浜国立大学総合学術高等研究院 上席特別教授

金川晃大さん（講義4、現地実習・演習）

公益財団法人 知床財団 事業部 保護管理事業係長

田澤道広さん（現地実習・演習）

羅臼町産業創生課（野生動物担当）

梶 光一さん（現地実習・演習）

兵庫県森林動物研究センター所長・当アカデミー代表理事

詳細ページ ▶



開催中

2つのオンライン講座を開催中です！

「実践 野生動物管理学」「希少種の保護管理 III～V」

知床ネイチャーキャンパス（SNC）オンライン「実践野生動物管理学」は6月から、「希少種の保護管理 III タンチョウ編、IV 海鳥編、V 猛禽類編」は7月から、講座開催しています。多くのお申し込みを、どうもありがとうございました。



実践 野生動物管理学

- 1 生物多様性と野生動物（6月11日）
鷲谷いづみ・東京大学名誉教授
- 2 野生動物管理ーワイルドライフマネジメントとは（6月25日）
- 3 野生動物管理に関わる法制度（7月9日）
- 4 ヨーロッパと北米の野生動物管理（7月23日）
2～4：梶光一・東京農工大学名誉教授
- 5 野生動物の基本生態と社会的課題1ーニホンジカ・イノシシ（8月6日）
- 6 野生動物の基本生態と社会的課題2ークマ類（8月20日）
5～6：横山真弓・兵庫県立大学教授
- 7 野生動物の基本生態と社会的課題3ーニホンザル（9月3日）
山端直人・兵庫県立大学教授
- 8 特定鳥獣保護管理計画に基づく管理ーモニタリングに基づく科学的管理
横山真弓・兵庫県立大学教授（9月17日）
- 9 鳥獣被害特措法に基づく対策（10月8日）
山端直人・兵庫県立大学教授
- 10 外来哺乳類の管理（10月22日）
栗山武夫・兵庫県立大学准教授
- 11 野生動物管理における感染症対策（11月5日）
鈴木正嗣・岐阜大学教授
- 12 持続可能な資源としての野生動物の管理（11月19日）
伊吾田宏正・酪農学園大学准教授
- 13 高等教育機関における野生動物管理従事者の育成（12月3日）
鈴木正嗣・岐阜大学教授
- 14 野生動物の個体数推定と動態予測（12月17日）
高木俊・兵庫県立大学准教授

希少種の保護管理

共通講義

- ・希少鳥類保護の法制度と事業
鳥居敏男さん（元環境省自然環境局長）

III タンチョウ編

- ・タンチョウの生態と生息地保全（7月29日）
- ・タンチョウの分散促進～現状と課題～（8月19日）
長谷川理さん（EnVision環境保全事務所）

IV 海鳥編

- ・世界と日本における海鳥の現状
（含む知床の海鳥の現状）（9月9日）
- ・世界の海鳥を取り巻く諸問題：漁業、採取、
プラスチック、移入動物、気候変動（9月23日）
- ・わが国における海鳥保全
（ウミガサの保護増殖事業など）（10月14日）
綿貫豊さん（北海道大学名誉教授）

V 猛禽類編

- ・クマタカ・イヌワシの生態と生息地保全（11月11日）
- ・サシバの生態と繁殖地および越冬地の保全（11月25日）
山崎亨さん（アジア猛禽類ネットワーク会長）

活動支援のための 賛助会員・寄付金のお願い

知床ネイチャーキャンパスをはじめとする当アカデミーの事業は、皆様からの浄財によって行われています。一層のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

詳しくはホームページ、または当財団事務局までお問い合わせください。

知床自然アカデミー ホームページ

賛助会員・寄付金募集ページ

<http://shiretoko-u.jp/supporter/>



知床トーク2025を開催します！

多くの人が訪れる知床の観光スポット。そこから見える知床の価値や世界遺産になった理由とその物語をお話しします。（観光スポット：知床五湖、フレペの滝、知床横断道路沿線、知床峠、観光船航路、ブユニ岬、ウトロ市街地など）
参加無料、申込不要。ホテル宿泊客など観光客、地元住民など誰でも歓迎です。

日 時：2025年8月29日（金） 20:00～21:00
場 所：知床第一ホテル1階ロビー
テーマ：「観光スポットで知る世界自然遺産」
お話し：中川 元（知床博物館元館長・当アカデミー業務執行理事）



京都市立西京高等学校の研修旅行で

知床の自然に関するワークショップを行いました

2025年3月3日、研修旅行で知床滞在中の京都市立西京高等学校1年生を対象に、知床の自然に関するレクチャーと振り返りワークショップを行いました。生徒の皆さんは流氷ウォークやフレペの滝のスノーシューツアーに参加し、冬の自然を体験。世界遺産センターでは、中川元・業務執行理事が海氷ができるメカニズムや海と川と陸のつながりについてお話ししました。その後、個人で印象に残ったことなどを振り返り、班ごとに共有。最後に知床の自然はどんな自然だったかをまとめて発表しました。
「教科書的な言葉ではなく、体験したからこそその言葉を探そう」というリクエストに沿って、皆さんそれぞれの感性で素敵な言葉を見つけてくれました。今回の体験から生態系のつながりや人と野生動物の共存など、知床の本質のようなものをしっかり理解してくれたことがわかりました。



オンライン講座「希少種の保護管理」を開催しました

Ⅰ シマフクロウ編 Ⅱ オジロワシ・オオワシ編

シカやクマなどのように個体数の増加により人間社会との軋轢が激化している生物種がある一方、開発などの人間活動により生息環境を奪われ、存続の危機に晒されている種があります。こうした希少種別に、第一線の研究者がその保護管理策の現状と課題についてお話しするオンライン講座を開催しました。

日 時：2025年1月30日（木）～3月20日（木） 19:30～21:00 全5回
方 法：オンライン（Zoom）
参加者：69名（小学生～社会人）

講義内容

講義1 希少鳥類保護の法制度と事業	鳥居 敏男さん（元環境省自然環境局長）
講義2 シマフクロウの生態	早矢仕有子さん（北海学園大学教授）
講義3 シマフクロウ保護の取組	早矢仕有子さん（北海学園大学教授）
講義4 オジロワシの生態と保護、生息地保全	白木 彩子さん（東京農業大学生物産業学部准教授）
講義5 オオワシの越冬生態と生息地保全	中川 元さん（当アカデミー業務執行理事）



2024(令和6)年度 事業報告

はじめに

2024年度の「知床ネイチャーキャンパス2024」は、自然にかかわるWORK&PEOPLEをテーマに、初めて高校生を対象を広げ、高校生～大学生の若年層が野生動物保護管理など自然にかかわる仕事の実感を現地で理解することを目的として開催しました。

2024年1月に開始したオンライン連続講座「ワイルドライフマネジメント」は7月に完結。この修了者等を対象とした「ワイルドライフマネジメント・知床ミーティング」をヒグマ・エゾシカ対策を学ぶ現地実習として開催しました。

このように知床ネイチャーキャンパスを核とした教育

実践や各種広報事業の展開、調査研究事業などを実施し、公益法人制度に則った適切な組織運営に努めました。これらの事業は全国の個人・企業・団体からの賛助会費、寄付金、参加者からの参加費、公的助成制度を充当しました。

2024年度の事業及び活動は、高等教育機関のモデルプログラム（広報活動及び設立準備活動の一環）として2016年に始め、以降進化させてきました。実践活動に並行し、これらを定款の中に明確に位置づけるため定款変更を行い、25年度当初には名称変更を行うこととしました。

公益事業に関する報告

【1】人材育成事業 知床ネイチャーキャンパスの開催

① 知床ネイチャーキャンパス2024

自然にかかわるWORK&PEOPLE

オンライン講義 現地知床実習・演習
2024年8月25日 2024年9月23日～25日

オンライン講義は、高校生から社会人までの40名が参加。そのうち現地実習・演習には高校生、大学生、大学院生18名が参加しました。バックヤードも含めた自然にかかわる仕事の現場を見て歩き、講師の話を聞いて学び、最終日の演習では自然にかかわる仕事に大切な「力」とは何かを議論し、発表しました。



② オンライン特別連続講座「ワイルドライフマネジメント」

2024年1月16日～7月16日 19:30～21:00
月2回（ほぼ隔週）開催 全14回

講師：梶 光一

（東京農工大学名誉教授・兵庫県森林動物研究センター所長・当財団代表理事）

講師の著書『ワイルドライフマネジメント』をテキストとして、各章を解説する形の講座を開催しました。受講申込者は190名、延べ総受講者数は1,151名、修了証授与者数は60名となりました。



③ ワイルドライフマネジメント 知床ミーティング

エゾシカ・ヒグマ管理の現場にて

現地知床実習・演習

2024年10月19日～21日

2024年1～7月に開催したオンライン特別連続講座「ワイルドライフマネジメント」の総仕上げという位置付けで、講座受講生、社会人（現職者）を中心に11名が参加し、開催しました。エゾシカとヒグマ管理の現場で講師の話を聞き、知床の課題や現状を学ぶとともに、普段他地域で働く受講生同士の交流も深めました。



④ オンライン講座「希少種の保護管理」

シマフクロウ編、オジロワシ・オオワシ編

2025年1月30日～3月20日 19:30～21:00

ほぼ隔週開催 全5回

講師：鳥居 敏男（元環境省自然環境局長）

早矢仕有子（北海学園大学教授）

白木 彩子（東京農業大学准教授）

中川 元（当財団業務執行理事）

希少種別に、第一線の研究者がその保護管理策の現状と課題についてお話しする全5回の講座を開催しました。小学生～社会人まで69名が参加しました。※詳しくはP8を参照ください

⑥ 京都市立西京高校の研修旅行コーディネート

2025年3月3日、1年生25名が参加する北海道研修旅行の知床滞在時におけるワークショップのコーディネート及び現地指導を行いました。2月13日にはZoomによる事前学習も実施しました。

※詳しくはP8を参照ください

⑤ 知床トーク

国立公園指定60周年＝知床のあゆみと未来を考える

第1弾

2024年8月8日 20:00～21:00

ホテル知床ロビー 参加者約40名

講師：中川元（当財団業務執行理事）

「知床国立公園の歩んだ60年＝その歴史と現在＝」

第2弾

2024年8月13日 20:00～21:00

北こぶし知床ホテル＆リゾートロビー 参加者約60名

講師：寺山元（Buen Camino! 代表）

「歩く旅から見える知床の価値

3つの国立公園とまちを繋ぐロングトレイル」



【2】広報事業・調査研究事業

① ニュースレターのリニューアルと発行

31号 2024年 8月10日発行 12p

32号 2024年12月10日発行 12p



② 知床ネイチャーキャンパス 報告書の発行

2025年3月21日発行 24p



③ ネットを使った広報活動

ホームページ（ブログ）

Facebook、X、Instagramを継続運用し、行事案内や知床の話題など幅広い情報発信を行いました。

ファンドレイジング状況

	種別	実績(件数)	実績(金額)
賛助会員	個人	113	565,000
	団体	5	50,000
	法人・法人特別	33	1,220,000
	小計	150	1,835,000
一般寄付金		45	2,925,040
管理指定寄付金		3	76,867
	合計		4,836,907
設立資金		1	1,130

(単位:円)

賛助会員の新規募集と寄付金の要請は、訪問説明や支援要請など積極的な働きかけを行いました。賛助会費の決済をクレジットカードで行なえるように、(株)コングラントの決済システムも導入しました。これらにより新規賛助会員は21件、寄付件数も1件増加しました。

その一方で、高齢等の事情により会員継続されなかった方もあり、賛助会費及び寄付金収入は昨年から55万円強の減少となりました。

2024年度 決算報告

正味財産増減計算書

令和6(2024)年4月1日～令和7年(2025)3月31日

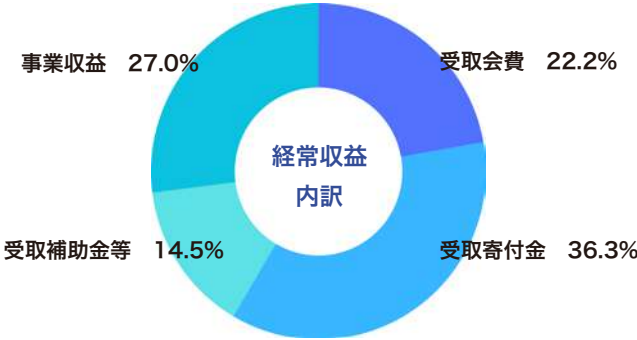
科目	金額
基本財産運用益	51
受取会費	1,835,000
受取寄付金	3,001,907
受取補助金等	1,200,000
事業収益	2,234,192
雑収益	490
経常収益計	8,271,640
事業費	5,880,955
管理費	1,088,043
経常費用計	6,968,998
当期経常増減額	1,302,642
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	1,302,642
当期指定正味財産増減額	1,130
正味財産期末残高	8,185,385

貸借対照表

令和7(2025)年3月31日現在

科目	金額
流動資産 ①	2,335,625
固定資産 ②	6,307,627
基本財産	3,000,000
特定資産	3,247,627
その他固定資産	60,000
合計 ①+②	8,643,252
流動負債 ③	457,867
固定負債 ④	0
(1)負債合計(③+④)	457,867
指定正味財産 ⑤	6,247,627
一般正味財産 ⑥	1,937,758
(2)正味財産合計(⑤+⑥)	8,185,385
合計 (1)+(2)	8,643,252

※事業収益には、知床ネイチャーキャンパス受講料（オンライン講座含む）や高校研修旅行コーディネート料、「令和6年度オジロワシ・オオワシ保護増殖事業」結果解析事業支援の受託金が含まれます。



職員日記

地域に浸透する知床の価値



本ニュースレターをお読みの皆様、こんにちは。4月から当アカデミーに新入職員として所属している木立真凜と申します。今回は、少し前まで知床の外からいち学生として知床を見ていた私が、斜里町民となり数ヶ月経った今、感じることを書きます。

私が最初に知床に来たのは、学部1年生だった2019年に知床ネイチャーキャンパスに参加してのことでした。当時の私は、野生動物や自然の保護管理に世の関心が十分向いていないと感じていました。ですが、ネイチャーキャンパスを通して、知床では行政、団体が協働して精力的に自然との共生に取り組んでいると知りました。このようなモデルケースがあると知ったことは、私に大きな衝撃と希望を与えました。

今年からはさらに知床に住み、働き始め、ここに住む人々と接して、新たに気付いたことがあります。それは、知床とその自然が価値あるものだという意識が、関係者のみならず地域の人々の中にも広く根付いている、ということです。もちろん、地域住民は専門家ではないため、遺産地域やシカ・クマの軋轢問題に熱心であるとは限りません。ですが、多くの人が根底に、知床とその価値への一定量の愛と矜持、高い意識を持っていると感じます。そしてそれは、地道に知床の価値を説いてきた先人たちの成果であると思います。

私は最近、ウトロの小中学生を対象に野外活動を行う、知床自然愛護少年団の活動を手伝っているのですが、そこで子供達が磯で見つけた生き物を見て口々に「あ！これは〇〇だ」と種名で表現したのを見かけ、驚きました。しれとこ斜里ねぶた（斜里町で毎年7月に開催される祭り）ではヒグマをモチーフにした意匠も多く見られました。斜里町の広報誌では、頻繁に世界遺産たる知床やヒグマとの在り方についての記事やイベントが開催されている様子が伺え、地域として知床の自然や特異性に接する機会が積極的に設けられているのを感じます。

かつて知床の外から知床を見た私は、人と自然との共生について各機関が連携できている先進的な場であると感じました。今、住民としてこの地で暮らし、その思いはさらに裏付けられる結果となりました。自然との共生の問題は、専門家だけでは解決し得ません。「専門家ではない層」の理解が必要です。そして、この場所ではその、自然の価値が地域住民に浸透しているという素晴らしい特徴があります。そのような地で自然との共生を学ぶことは重要であると改めて痛感します。当アカデミー職員としてその機会の創出に貢献していることを嬉しく思うと同時に、これからのアカデミーの可能性に思いを馳せる日々です。

知床自然アカデミー事務局
木立真凜（きだち・まりん）



公益財団法人

知床自然アカデミー
Shiretoko Nature Academy

〒099-4117

北海道斜里郡斜里町青葉町28番地10

TEL : 0152-26-7770 FAX : 0152-26-7773

E-mail : sizendaigaku@wine.plala.or.jp

WEB : <https://shiretoko-u.jp>



Facebook @shiretoko.u
X @sizendaigaku
Instagram @shiretoko_u

アカデミー ニュースレター（会報誌） No.33

発行日 2025年8月10日

発行 公益財団法人 知床自然アカデミー